読み聞かせ　ジャングル・ブック　抜粋

【むかしむかし　場所はインドの山奥】

虎のシェア・カーンが村をおそい、村人はみな逃げ出します。  
親に置いて行かれてしまった赤ん坊が、よちよち歩きでオオカミのほら穴にやって来てしまいました。  
子育て中だった母オオカミはその子をかわいく思い、自分の子たちと同じように乳をやります。  
そこへやってきたのが、たき火で足をやけどして逃げていたシェア・カーン。  
「その赤ん坊はおれが先に見つけたえものだからよこせ」とおどします。  
  
母オオカミは「自分の子だ」と啖呵を切り、夫婦そろっての気迫でシェア・カーンを追い払います。  
毛のない赤ん坊はカエルを意味する「モーグリ」という名前を付けられ、オオカミの兄弟といっしょに育てられます。  
父はモーグリをオオカミの会合に連れて行き、群れの一員として認めてほしいと頼みます。  
  
若い何匹かが不服を唱える中、長老のアケイラは、育ての親夫婦　以外に２匹の支持があれば認められると言いました。  
  
支持者として名乗りをあげたのは、狼ではないものの、子オオカミたちに  
「ジャングルの掟」を教える教師役を果たしている年とった熊のバルー。  
  
２匹目は幼い頃人間に育てられた黒豹のバギーヤで、彼は贈り物として殺したての雄牛を一頭、群れに捧げることでモーグリの受け入れを確保しました。  
こうしてモーグリはジャングルの中で兄弟オオカミと一緒にすくすくと成長していきます。

熊のバルーは大変きびしい先生で、モーグリがまちがえたり、一生懸命でなかったりすると叩くのですが、本人は軽いつもりでも、そこは熊だけにすごい力。  
いやになって逃げだしたモーグリは猿たちと知り合いになりますが、  
ジャングルのはみ出しものである猿たちの頭は空っぽで、ルールなんかすぐに忘れてしまうような集団です。その親分はパンダローグです。  
モーグリの知能に驚いた猿のパンダローグは、リーダーにしようと思い、さらってしまいます。  
  
バルーとバギーヤは、モーグリ救出のため、ジャングルで最も恐れられる巨大ニシキヘビのカーを訪れます。  
  
「人間の子のなかでいちばんよい、いちばんかしこい、いちばん大胆なやつだ」とカーに説明すしました。  
バルーは「おれはーーあれを愛してるんだよ」とも。  
「「愛するということ」についてならおれにも話がある」と言いだしたカーをバギーヤがさえぎります。  
「とにかくその子はいま猿どもの手中にあって、あいつらが怖れているのは、このジャングルでカーだけだ」と。

～こんなことがあり、カーはパンダローグを脅したのでした。カーの力を借りて、モーグリは無事にバルーとバギーヤにより、猿の群から救われました～  
虎のシェア・カーンはその後もなんとかしてモーグリを食べてやろうと執拗につけ狙っていました。

虎のシェア・カーンの手下は、シェア・カーンの狩りのおこぼれをいつももらっている腹ペコのハイエナのタバキたちです。群れになって弱い動物をいつもねらいます。

シェア・カーンとハイエナのタバキたちは、何匹かの若いオオカミを言いくるめて群れから追放させておいてから、モーグリに迫ります。  
  
シェア・カーンに対抗するには「赤い花」を使えとバギーヤから  
忠告されていたモーグリは、隠し持っていた火を使って　シェア・カーンとオオカミやハイエナのタバキを脅かし、人間の村へ走って逃げました。  
  
人間の村で、虎に子供を盗まれた夫婦に引き取られましたが、服を身に付けることや、室内で眠ることなど、人間の習慣がなかなか身につきません。  
  
またインド社会のカースト制度（身分差別）になじめず、たとえば自分より身分が下の者の手助けをしただけで目上の者に怒られることなど理解できないことだらけ。  
  
時おり兄弟オオカミがやって来て、ジャングルの様子を知らせてくれます。  
「おまえはオオカミだってことを忘れやすまいね？　  
人間がおまえにそのことを忘れさせたりしないだろうね？」  
と灰色の兄弟が心配そうに言います。  
「忘れやしないとも」とモーグリは話します。

「おまえや、ほらあなのみんなを愛しているということはいつだって覚えているさ。  
でも自分が仲間から追いだされたってこともいつだって覚えてるよ。  
そしてこんどは人間の仲間からも追いだされるかもしれないってことも」

ある日、家畜の群れの番をしていたモーグリは、兄弟オオカミから、シェア・カーンとタバキの「昔と同じように、村を襲ってやろう」という悪いたくらみについて話を聞きます。  
  
この兄弟と長老のアケイラの助けを借りて、シェア・カーンとハイエナのタバキたちを迎えうちます。大変な戦いをしてモーグリは、逆に相手を殺してしまいます。  
賞金がかかっていたシェア・カーンの毛皮をはぎ、灰色オオカミの兄弟たちとともに堂々と村へ戻ります。  
  
ところが、英雄扱いされるどころか、「魔法使い！オオカミの子！ジャングルの悪魔！」とののしられ、石を投げられます。  
モーグリは再びジャングルへ。

ジャングルへ戻ったモーグリは外の空気を吸って眠り、バギーヤやバルーとの再会を喜びました。

まだまだ、モーグリの冒険は続きます。

～おしまい～